

TAKATSUKI
RED CROSS
HOSPITAL

赤の森

2013 Jun
No. 88
www.takatsuki.jrc.or.jp

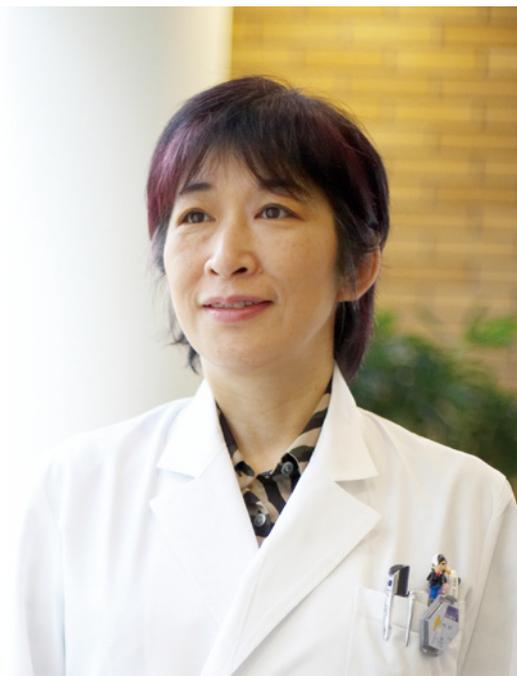
フィリピン保健医療支援活動 帰国報告 (6・7面に特集記事)



就任の挨拶

副院長 平松 昌子

4月1日付より副院長に就任いたしました。
私は1984年に大阪医科大学を卒業後、一般・消化器外科にて幅広く消化器外科医としてのキャリアを積んでまいりました。1994年からは米国St. LouisのWashington大学で救急医療や臓器障害の研究に携わり、1998年に帰国後は主に上部消化管（食道・胃）疾患の外科治療を行ってまいりました。特に食道外科においては北摂地域で数少ない食道外科専門医の資格を有し、完全胸腔鏡・腹腔鏡下による「ほとんど傷のない」食道癌手術や、チーム医療による術後合併症の予防に取り組んでいます。また癌の治療だけではなく、食道裂孔ヘルニア、逆流性食道炎、アカラシアといった機能性疾患の腹腔鏡下手術にも力を入れておりますので、胸やけや逆流症状、嚥下障害（のみ込みにくさ）などの症状がある方は、是非ご相談ください。



大腸や肝胆膵疾患においても数多くの手術経験がありますが、今後はこれらの領域でも本院の腹腔鏡手術症例数を増加させていきたいと考えています。一方で手術手技のみにとらわれることなく、例えば高度進行癌に対しては積極的な拡大手術や化学療法を併用しながら安全で根治性の高い治療を追及するなど、それぞれの患者様のニーズや病態を理解しながら総合力をもって治療にあたっております。さらにこれまでの経験を生かし、急性腹症等の腹部救急疾患に対しても迅速かつ的確な診断・治療にあたるよう努めてまいります。

この4月から外科では複数の医師が交替し、新体制となりました。一部の患者様や関連の先生方には御迷惑をおかけ致しましたが、新生日赤外科チームの若いパワーで地域医療に貢献していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。



この度、4月1日より高槻赤十字病院 眼科部長として勤務させていただきます佐藤孝樹と申します。大阪医科大学附属病院にて9年間、網膜硝子体疾患の治療に携わってまいりました。網膜硝子体疾患のなかには、糖尿病網膜症、網膜剥離など手術で治療する分野と、最近iPS細胞で話題の加齢黄斑変性などを薬剤で治療する分野とにわかれます。大学病院では両方の分野について、数多くの患者様ならびに多岐にわたる疾患の治療に携わらせて頂き研鑽を重ねて参りました。

当院においては、最新の白内障手術機器および硝子体手術機器を導入しており、大学病院と遜色ない手術が可能となっております。また、加齢黄斑変性をはじめ黄斑疾患の治療についても、診断レベルの向上のため、新しく造影検査機器を導入し、より質の高い診断治療が出来るようになっております。

患者様に信頼され安心して治療を受けて頂けるよう、また質の高い医療を提供して頂けるように今後も努力していく所存です。

今後ともよろしくお願いたします。

退職の挨拶

前医療社会事業部長 多治見 佳代子



22年間在職しました高槻赤十字病院を平成25年3月末で定年退職をいたしました。

在職中は多くの皆様に支えていただきまして、看護副部長、医療社会事業部長として務めることができました。この間、急性期の看護の実践とともに看護管理者としての人材育成など多岐にわたりました。

医療社会事業部での3年半は地域医療支援病院の承認に関わり、急性期病院として地域の医療機関との連携の重要性を痛切に感じました。このようななか、地域医療を担っている医療機関の先生方には大変お世話になり、感謝いたしております。私は常に高槻赤十字病院の理念である『地域の皆様が誇りに思う病院』を目指して、前方支援・後方支援をめざす循環型医療と切れ目のない医療の充実を考えてきました。

今後は、これまでの経験を生かして、急性期病院からの患者さまを受け入れる回復期リハビリテーション病院で看護師の育成と後方支援病院としての地域医療の充実と切れ目のない、信頼される医療の一環を担っていきます。また、チーム医療の中で、個々の患者さまにあった日常生活の支援とより良い看護の提供を目指していきます。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。また、皆様方の今後ますますのご健勝とご活躍をお祈りいたしております。

当院形成外科は、日本形成外科学会教育関連施設で、形成外科疾患全般（外傷、先天異常、腫瘍、しゅよう はんこんこうしゆく なん ち せい かいよう癒痕拘縮、難治性潰瘍、炎症・変性疾患、美容、レーザー治療など）に対応しています。また、当院で治療不可能な場合は、適切な医療機関へご紹介させていただきます。

今回は、診療科トピックスということで、形成外科診療で力を入れている分野の一つとして、顔面外傷と外傷後の変形・はんこんこうしゆく癒痕拘縮の治療・後療法についてご紹介させていただきます。

車の機能の向上や、飲酒運転のとりしまり強化・シートベルト着用義務化などにより車での交通事故による顔面外傷の程度は軽減しています。しかし、バイク・自転車・歩行中の事故その他 スポーツ外傷・喧嘩などが原因でおこる顔面外傷も少なくありません。軽症の擦り傷・切り傷程度であれば 通院での治療が可能ですが、顔面骨骨折などを伴う場合は、入院・全身麻酔手術となることもあります。症状としましては、ち かく どん ま知覚鈍麻、ま ひ顔面神経麻痺（眉の挙上ができなくなる、口角が下がるなど）、複視（ものが二重に見える）、そしやくしやうがい開口障害、こうごう ふ ぜん咀嚼不全、し が ぞんしやう歯牙損傷、しゅうじょうこん顔面の変形、しゅうじょうこん醜状痕、鼻出血、軟部組織損傷などがみられます。

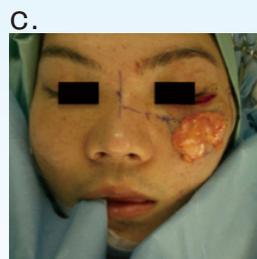
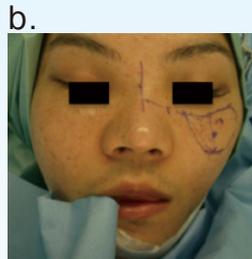
顔面骨骨折の治療は、一般に全身麻酔下で行われ、骨折部を整復し、チタンプレートや吸収性プレートなどで骨固定を行います。（図1）

場合によって骨移植を同時に行うこともあります。また、第1回目骨折手術後数ヶ月して損傷の程度が強く、しゅうじょうこん変形やしゅうじょうこん醜状痕が残る場合は、修正手術（はん こん こうしゆく癒痕拘縮形成術、骨・軟部組織移植など）を行うこともあります。顔面神経麻痺の治療では、神経の切断がない場合は、内服などで軽快してくることが多いです。神経の切断がある場合は、神経縫合、欠損があれば、神経移植などが必要となってきます。受傷前と全く同じ状態に戻すことは無理ですが、受傷前の写真をご持参いただいたりして、できるだけ近い状態に近づけ、社会復帰しやすくなるように配慮しています。また、手術後・受傷後、数ヶ月間のテーピングや内服・外用剤などによる後療法も大切です。顔面外傷の治療の写真をお示しします（図1-4）。

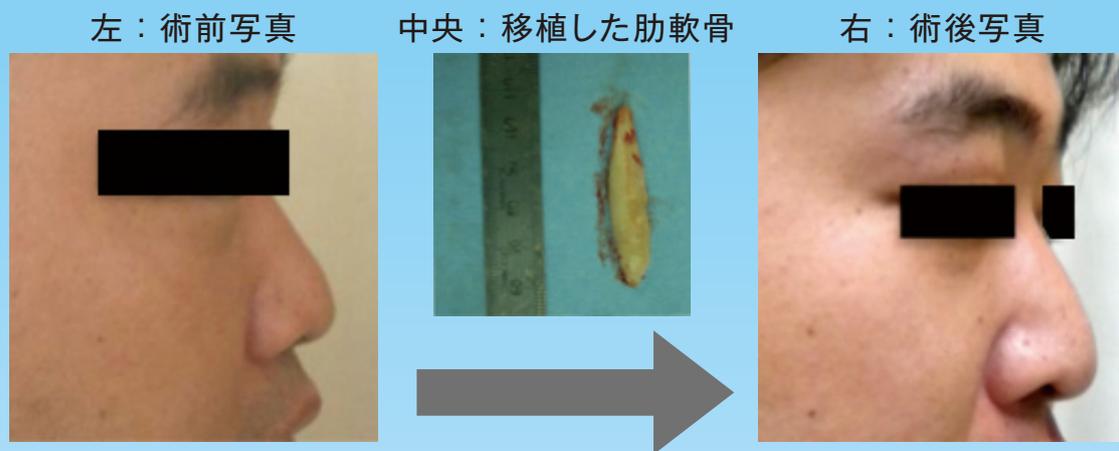
形成外科疾患につきまして ご不明なことがございましたら、お気軽にご相談ください。

（図1）バイク事故による顔面多発骨折整復術後、追加手術。

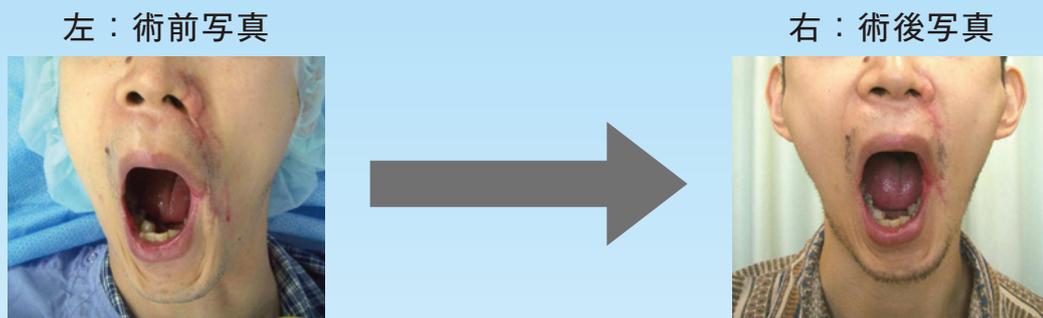
a. 顔面三次元CT。多数のプレートで骨折部が固定されています。b. 左頬部かんぼつ陥凹しています。c. 真皮脂肪移植手術中 d. 真皮脂肪移植直後



(図2) 陳旧性鼻骨骨折による鞍鼻(低い鼻)に肋軟骨移植を行っています。

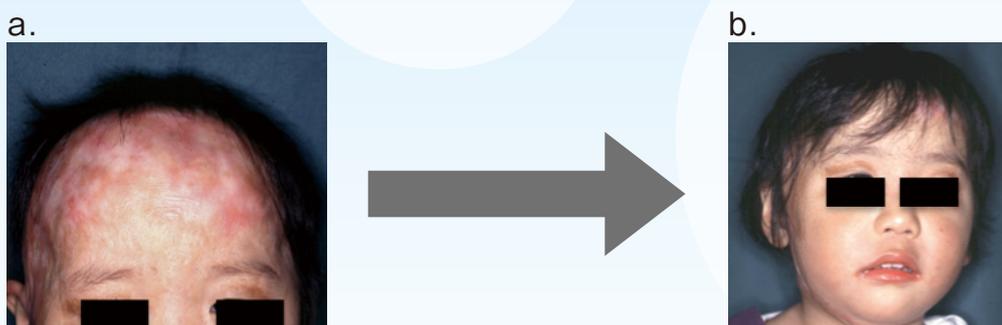


(図3) 顔面外傷後3ヶ月。開口時に左鼻孔～左口角の強いひきつれ(瘢痕拘縮)が残存するため、瘢痕拘縮形成術を行い、症状を改善しています。



(図4) 頭部・顔面のやけどにより、前頭部が禿髪となったため、正常有毛部皮下に組織拡張器を入れて有毛部の皮膚軟部組織を伸展させて、禿髪部へ移動しています。

- a. 熱湯によるやけど受傷後、やけどは治っていますが、禿髪となっています。有毛部皮下に組織拡張器を埋め込み有毛部の組織を伸展させます。
- b. 禿髪部に伸展させた有毛部を移動したあとの写真です。



フィリピン保健医療支援活動 帰国報告

2病棟看護係長・助産師 原田 香織

2012年10月3日から2013年4月10日までの約6か月間、フィリピン共和国のキリノ州（首都マニラから北東に375km離れた山岳地帯）で日本赤十字社が実施している保健医療支援事業のため、駐在員として活動しました。その際に、私が見た現地の医療事情などについてお伝えします。

キリノ州の医療状況

キリノ州は人口約16万6千人で、その人口に対して、この州の医療施設は、1か所の州立病院（100床）と3か所の郡立病院（計45床）のみで、かなり少ない状況です。

2012年10月に州立病院に行く機会がありました。この病院は病床100床で、産婦人科、小児科、内科、外科があります。院長によると常に満床でベッドが不足し、救急車2台を保有していますが、いつもフル回転で走っており、需要に応じられない状況であるとのことです。実際に、病室に入りきれない患者が廊下まであふれていました（写真①）。

また、貧困のために医療費を支払えないケースや、道路状況がひどい（写真②）上、公共交通機関がなく医療施設までのアクセスが悪いなどの理由で、人々が医療サービスを容易に受けることが困難な状況にあります。



▲①現地病院内の状況
（右から2人目が原田助産師）



▲②現地の道路状況

フィリピンの医療施策

フィリピンでは、1991年に保健行政が中央政府から地方自治体に移されました。そのため、地方自治体が主体となって地域の保健医療問題に取り組まないといけない体制になっています。しかし、自治体によっては財政困難や人材不足のため、住民への保健サービスを十分に提供するのが難しい場合があります。日本でもよく似た状況がありますが、このような地域では、主に財源上の問題で、病気になってから治療することより、予防する施策に重点を置いています。具体的には、コミュニティレベルにおける保健医療サービスを拡充することによって、環境の改善や住民への知識を普及することが大切になります。

住民の疾患に対する知識不足と、衛生環境の問題

キリノ州では、急性呼吸器感染症、尿路感染症、高血圧、デング熱などが罹患の上位疾患となっており、時に死亡にいたるケースがあります。これらは、衛生的な環境が整い、また住民に疾患についての知識が十分あれば予防の可能なものですが、実際には不衛生な環境で住民の知識も不足しており、環境の整備とともに、予防のための知識を普及させる必要がありました。

こうした医療事情に対して、2005年以降、当地で、プライマリーヘルスケア（住民の参加と自立決定に基づく疾患予防、衛生環境改善などの包括的保健活動）を推進する日本赤十字社の保健医療支援事業が開始され、事業対象地（キリノ州アグリパイ郡）での疾患減少などの成果を上げています。6か月の間、このような事業に参加することができ、大変貴重な経験をさせていただきました。



▲現地の風景

感染管理認定看護師について

感染管理認定看護師 松下 めぐみ

認定看護師は、熟練した看護技術と知識を用い、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかることを目的に日本看護協会が定めた資格認定制度です。感染管理認定看護師は 2001 年より認定が開始となり、2013 年 5 月現在の登録者数は全国で 1595 名になります。

感染管理認定看護師の役割は、在宅から急性期病院まで、すべての医療関連施設を利用する患者さま・ご家族・訪問者はもちろん、現場で働くすべての人々を感染源から守ることであります。そのため、幅広い知識に加え、医療施設内で多職種と協働できる協調性や人間性を磨くことが求められます。

当院には現在、2 名の感染管理認定看護師がおり、医師、検査技師、薬剤師、放射線技師、理学療法士、事務職員から構成された院内感染対策チーム (ICT) と共に、院内巡回による指導・啓蒙活動、マニュアルの作成・改訂、感染症発生動向の監視、職員教育などを行っています。

また、来院者への感染予防対策として、地域でのイベントや小学校訪問による手洗い教室を開催しています。

2012 年からは近隣医療機関との連携により、感染対策ネットワークが構築され、地域を上げて感染防止に取り組んでいます。

専門性を発揮し、感染管理の視点から患者さま・ご家族の健康のサポートに努めてまいります。



消毒液の使用量などをチェックする様子（左が松下看護師）

医療安全フェアを開催しました!!

当院では各診療科、部署が独自に取り組んでいる医療安全・感染対策への取組をポスター形式にて作成し展示型の研修会を行っております。各部署が率先して医療安全・感染対策への取組を推進し他職種・他部署へ紹介する事で自身の意識向上が図れ、また他部署の取り組みを知る事ができモチベーションアップにもつながると考えております。

今後も様々な医療安全への取組みを行い、患者様に安心・安全な医療を提供できるよう努力していきます。

開催日時：平成 25 年 3 月 14 日、15 日

参加人数：317 名

演題内容例（合計 27 例）

『転倒転落防止への取り組み』

『今シーズンのインフルエンザ対策』

『患者間違い防止対策』…等



他はどんな取り組みをしているのかな？



災害救護機材の整備と 救護車両等の配備が完了しました

医療社会事業部社会課長 荻原直久

日本赤十字社では、一昨年に発生した「東日本大震災」の教訓を踏まえ、大規模災害への対応能力の強化を目的に、日本赤十字社全施設を対象として、それぞれの施設に必要とされる災害救護倉庫、救護中継基地の整備や災害救護・救護用車両、衛星電話、救護所用大型テント等の配備を行いました。

当院には、被災現場での活用を主目的とした応急救護所用の大型フレームテント、救護要員搬送や被災現場での多用途車両として現地災害対策本部用車両、高規格救急車両（ドクター

カー）及び災害救護資器材や救護物資搬送用としての3トトラックの合計3台の配備が完了しました。

配備した、現地災害本部用車両とドクターカーには、通常装備以外に、業務用無線、衛星電話・ファックス等を備え、さまざまな通信経路を確保し、災害情報収集能力を強化したことで、被災現場への医療救護要員派遣が迅速かつ安全に実施できます。

今後予想されている大規模地震等の発生に備え、また、地域災害においても有効活用できるように、職員一同、研修・訓練などを通じて研鑽を計ってまいります。



▲ 現地災害対策本部用車両（左）
救護物資搬送用車両（中）
ドクターカー（右）



▲ ドクターカー内部
モニター



高槻市立第四中学校第2学年 職業体験学習を受け入れました

医療社会事業部社会課長 荻原直久

「ひのきしん」 ありがとうございました

医療社会事業部社会課長 荻原直久



晴天に恵まれた四月二十九日（昭和の日）、天理教信者のみなさまによる毎年恒例の「ひのきしん」が当院で実施されました。

例年、新緑の芽吹く季節に構内の除草、清掃などに取り組んでいたように、今年は四百三十余名の皆様にご参加いただきました。

早朝から開始した「ひのきしん」は、お世話役の皆さんによる参加者への働きかけや、気温の上昇に伴う配慮の中、時間の経過とともにその成果が現れ、構内の緑を一層際立たせることができました。

また、当日午前中には、北大阪血液センターから献血車の配車もあり参加した皆さまには、献血にも積極的に協力していただきました。本当にありがとうございました。

二月二十八日から三月一日の二日間、高槻市立第四中学校第二学年二名の生徒たちが、働く人の姿に触れ、「職業」を考え、働くことの意義を学ぶことを目的とした職場体験を受け入れました。

当日は、実際に車椅子を押してボランティアとして患者さまのお手伝いをしたり、各部署をまわって病院の仕組みや医療について経験してもらいました。参加した生徒からは、「人を思いやる大切さ、看護師さんのたくましさ等を学べた」との声が寄せられました。

医療現場の色々な事に興味を持ち、将来の職業選択の視野拡大に役立ててもらいました。

新研修医の 紹介

質問

- ①出身大学？
- ②趣味（好きなこと）は？ 例：スポーツ等
- ③将来どのような医師になりたいか？



熊澤 佑介 医師

- ①愛知医科大学
- ②サッカー、剣道、読書
- ③患者の信頼を得られる医師になりたい



田中 サキ 医師

- ①近畿大学
- ②睡眠
- ③やさしくて頼りになる医師になりたいです



黒田 一慶 医師

- ①関西医科大学
- ②ソフトテニス、(ゴルフ)
- ③地域に根差した社会に必要とされる医師、いつまでも「ありがとう」と言ってもらえる医師になりたい。



田端 ようへい 医師

- ①旭川医科大学
- ②野外フェスに行くこと
- ③日々の勉強をかかさず適切な診断を行い、丁寧な対応ができる医師になりたい。

平成23年度採用研修医 研修修了式

研修課課長 阿部 哲子

平成 25 年 3 月 26 日（火）、当院 3 階来賓室にて、研修修了式を執り行いました。3 月末で初期臨床研修 2 年を修了する研修医 2 名、院長、副院長 3 名、看護部長、事務部長出席のもと、修了式が行われました。3 名でスタートした初期研修ですが、現在 1 名は育休中のため 2 名での修了式となりました。

こうして無事研修を修了することができましたのも、ひとえに、指導医の先生方や看護師やコメディカルの方々の熱い情熱と細やかな御指導があってこそのことと思います。本当にありがとうございました。

4 月からは 1 名が専攻医として当院に残り、新たに 4 名の初期研修医が当院の一員となっています。今後も引き続き、職員の皆様の御指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



地域医療連携報告会

医療社会事業部長職務代理 山岡 紀代美

地域の医療機関との連携強化・情報交換を目的として毎年地域連携報告会を今年も平成25年2月16日(土)、たかつき京都ホテルにて開催いたしました。

地域の先生方に多数ご参加いただき、当院医師による講演では質疑応答も盛んに行われ、懇親会では当院参加スタッフとの交流も例年に比べて盛況で和やかな時間を過ごしていただけたようでした。

これからも地域住民の方々の健康を守り、求められる治療に応えられる病院として地域の先生方との交流・情報交換など積極的な働きかけをしていきたいと考えています。

「地域医療の連携の和」を目標とし、当院地域連携室も医療サービスにがんばっていききたいと思います。

おすすめレシピ

～ 2013年4月 糖尿病勉強会より～

メニュー

- ・豚肉と筍のおかか炒め
- ・若竹汁
- ・彩りサラダ
- ・もやしとほうれん草のナムル
- ・果物
- ・ご飯 (計 150g)



材料 (1人分)

<豚肉と筍のおかか炒め>

豚ももスライス	80g
筍 (茹で)	30g
アスパラガス	20g
サラダ油	2g
酒	6g
濃口醤油	6g
鰹節	1g

<若竹汁>

筍 (茹で)	20g
若布 (乾)	1g
木の芽	1g
酒	1g
塩	0.2g
薄口醤油	3g
出し汁	150cc

<彩りサラダ>

大根	50g
水菜	10g
赤パプリカ	10g
黄パプリカ	10g
ノンオイルドレッシング	10g

<もやしとほうれん草のナムル>

もやし	60g
ほうれん草	20g
濃口醤油	4g
ごま	1g
ごま油	0.5g

<果物>

オレンジ	70g
------	-----

エネルギー 562kcal	炭水化物 74.0g	たんぱく質 27.4g	脂質 16.3g	塩分 2.8g	食物繊維 6.6g
------------------	---------------	----------------	-------------	------------	--------------

作り方

< 豚肉と筍のおかか炒め >

- ①筍は穂先と根元に分け、穂先は縦に幅8mm、根元は厚さ5mmのいちよう切りにする。
アスパラガスは根元の硬い部分を切って下の皮をむき、長さを4等分に切る。アスパラガスを下茹でする。
- ②フライパンにサラダ油を熱し、豚肉を炒める。肉の色が変わったら、筍、アスパラガスを加えさらに炒める。
- ③酒、濃口醤油を回し入れ、全体をざっと混ぜて火を止める。
- ④器に盛り、鰹節をかける。

< 彩りサラダ >

- ①大根、パプリカ(赤・黄)は千切りに、水菜は4cm長さに切り、水にさらす。
- ②器に盛り、ノンオイルドレッシングをかける。

<筍>

不溶性食物繊維であるセルロースが多く、便の量を増やして便通をよくします。コレステロールの吸収を抑える働きや腸内の有害物質を吸着して体外に排泄する働きもあるので、動脈硬化予防、大腸がん予防に役立ちます。また、カリウムも多く含まれているので、体内のナトリウムを排泄し、高血圧予防に有効です。

掘りたての筍はえぐみがないので、生でも食べられます。時間がたつほどえぐみの成分であるホモゲンチジン酸が増えるので、店頭で買ったものはアク抜きが必要。皮つきのまま、ぬかを入れた湯で茹でると、うまみを残してえぐみを除くことができます。茹でた後は十分水にさらしましょう。



日本赤十字社 高槻赤十字病院

〒569-1096 大阪府高槻市阿武野 1-1-1
TEL 072-696-0571 (代表)
URL <http://www.takatsuki.jrc.or.jp>
mail trc@takatsuki.jrc.or.jp
発行責任者 事務部長 神谷 尚孝

高槻赤十字病院の理念

私たちは人道・博愛の赤十字精神に基づき、高度で安全な医療を提供し、地域の人々が誇りにする病院となるよう努めます。

高槻赤十字病院の方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重し、患者さま中心の医療をおこないます。
2. 一人ひとりの患者さまを全職員が支援する、チーム医療をおこないます。
3. 患者さまのホームドクターと緊密に連携し、地域で完結する医療をおこないます。
4. 常に向上心と研究心をもち、最高最善の医療が実現できるように努めます。
5. 健全な病院経営と地域に貢献できる医療従事者の育成に努めます。
6. 災害救護活動をはじめとする赤十字に課せられた使命を果たします。



モバイルサイト

携帯電話でQRコードを読み取ってアクセスしてください

病院情報は
こちらから!

